

## はじめに

京都市衛生環境研究所は、市民の暮らしや健康を守るため、市内における保健・環境衛生行政の科学的、技術的な中核機関として、種々の疾病の予防、食の安全確保、また、生活環境の向上のための保健衛生、食品衛生、環境保全に関する「試験検査」、「調査研究」、「研修指導」、及び「情報の収集・解析・提供」等を行っております。

ここ数年、市民の健康と安全を脅かす健康危機事例が頻発しており、取り巻く環境も変化しております。海外におきましては、平成26年度に西アフリカ諸国でのエボラ出血熱が大流行し、今年に入ってから韓国において中東呼吸器症候群（MERS）の感染が拡大し、国内への侵入が危惧されました。また、国内においてはデング熱が約70年ぶりに国内発生するなど、危機管理体制を強化する必要性が益々増してきております。食品衛生関係では全国的にここ数年カンピロバクターやノロウイルスによる食中毒が多発し、また本市では平成26年度にウェルシュ菌による大規模な食中毒も発生しました。

このような中で、全国の検査研究機関と連携、協力するとともに、健康危機管理対策を整備し、迅速で正確な試験検査や情報提供を行えるよう所員一同励んでおります。

このたび、平成26年度の事業概要および調査研究の成果を、「京都市衛生環境研究所年報（第81号）」として取りまとめました。

当研究所は、今後とも関係機関と連携を図り、市民の安全と安心に対するニーズに応える機関でありたいと考えておりますので、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

平成27年11月

京都市衛生環境研究所長  
川上雅弘